

# 物流事業者におけるKPI導入促進 の必要性

平成26年11月27日

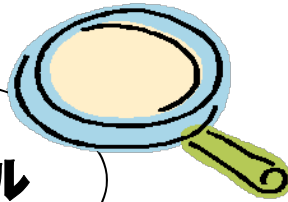
## KPIについて

- **KPIとは「Key Performance Indicator(s)」の略であり、重要業績評価指標などと訳され、企業目標等の実現のために業務プロセスのモニタリングに用いる指標。**
- **なお、KPIは様々な指標（Performance Indicator）のうち主要なものを指す言葉であるが、ここではKPIとPIとの差は厳密には区別せずに用いる。**

## 3つのツールとしてのKPI

- KPIは「見える化」「コミュニケーション」「評価」の機能を通じて経営高度化に寄与する。

見える化ツール



- ・現状を知ること

コミュニケーション  
ツール



- ・共通認識を作ること

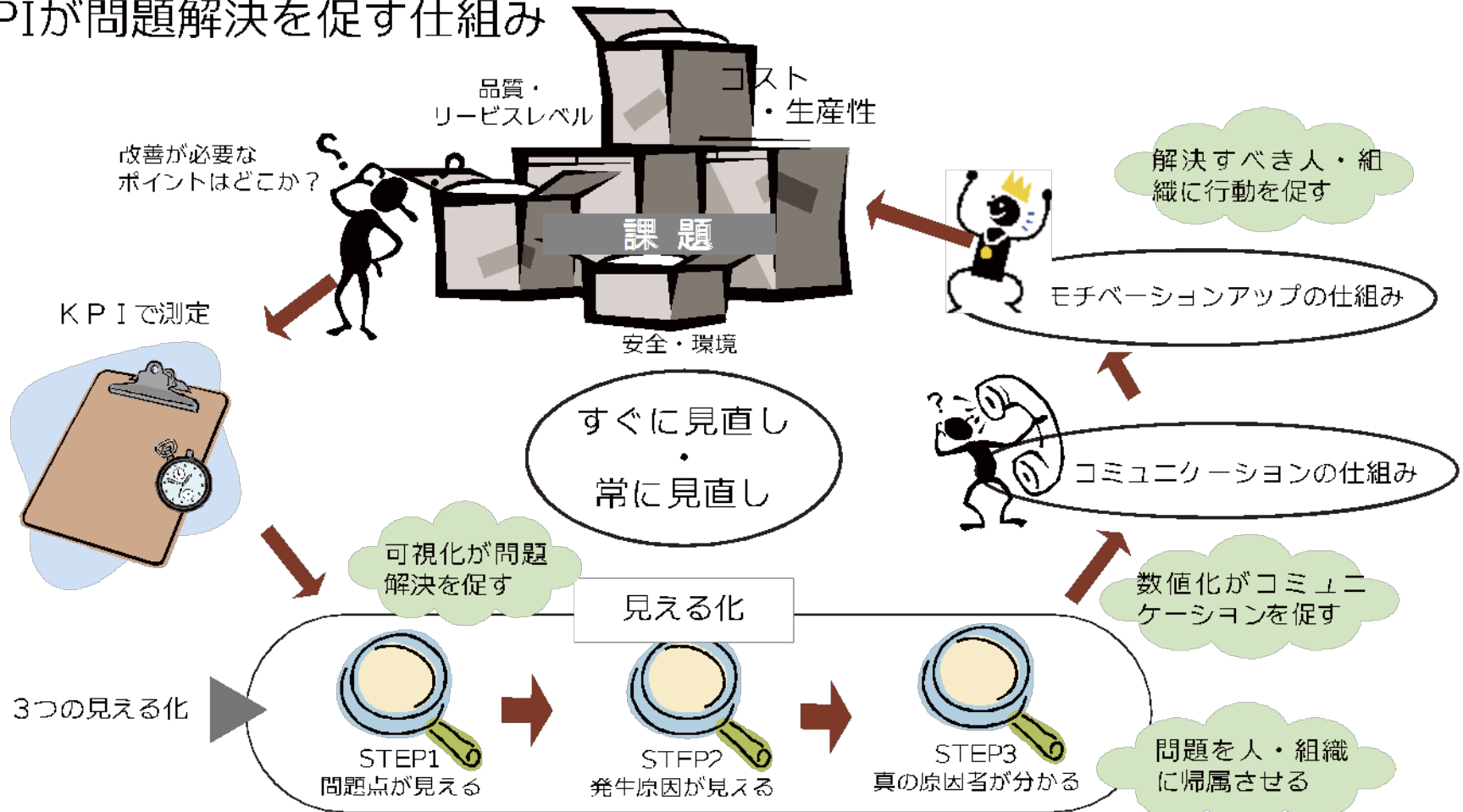
評価ツール



- ・担当者に解決を促すこと

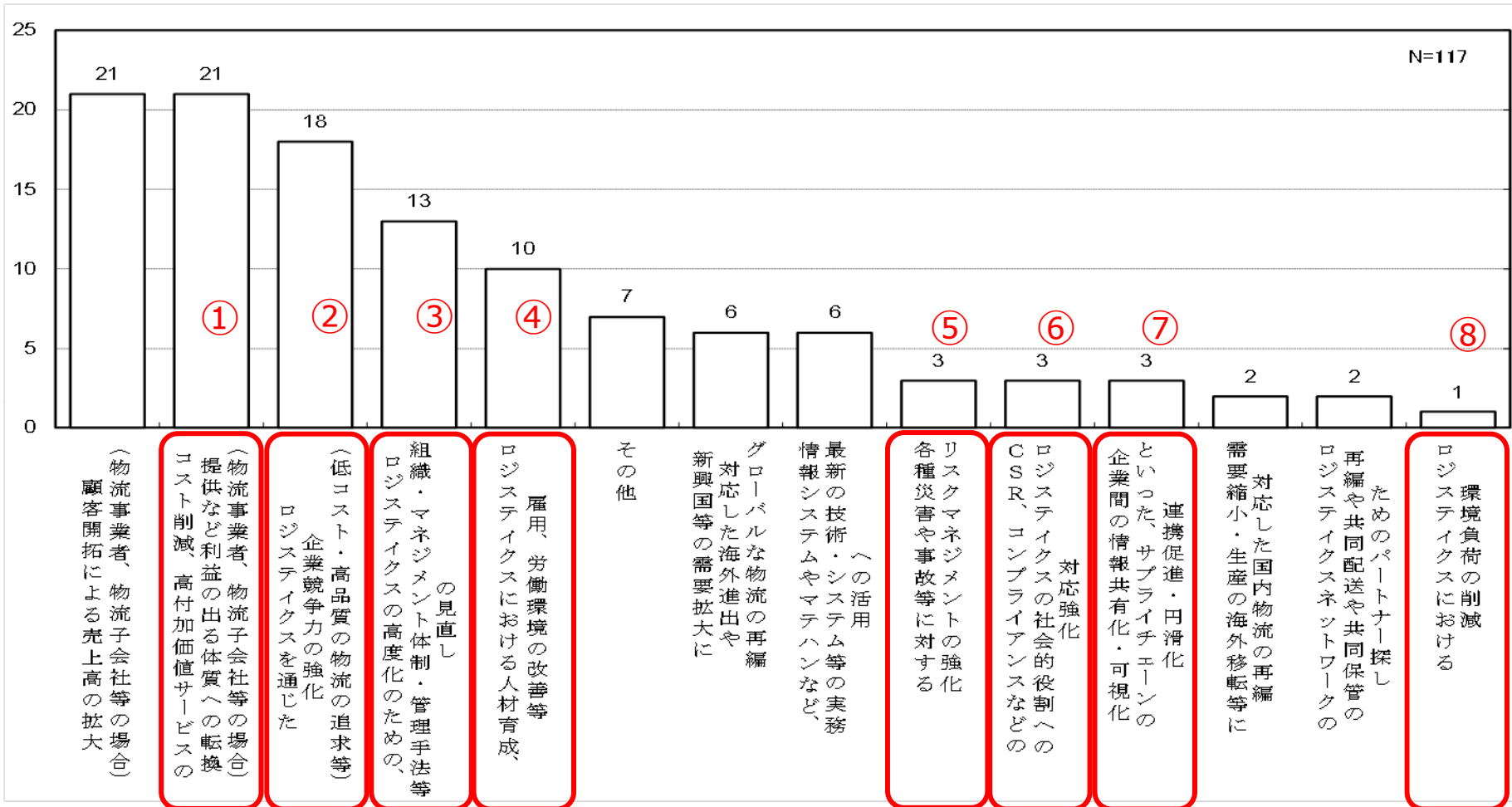
# KPIを用いた業務改善の流れ

## KPIが問題解決を促す仕組み



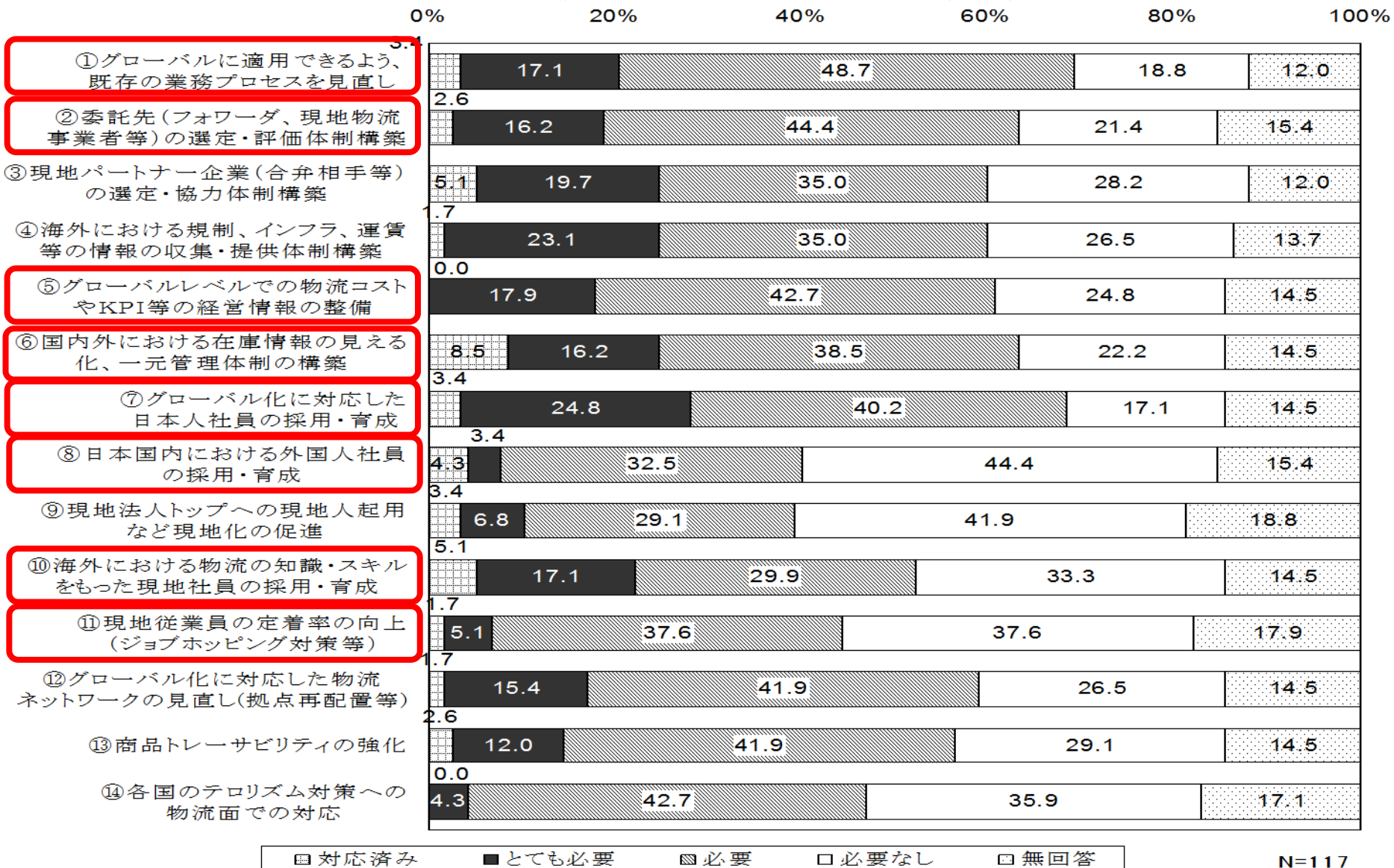
# 物流事業者の想定している課題（1）

- 物流事業者の想定している課題のうち、特にKPIの活用が関連しうる課題として①～⑧が挙げられ、KPIの活用が物流事業者の想定している課題に直接的・間接的に存在している。



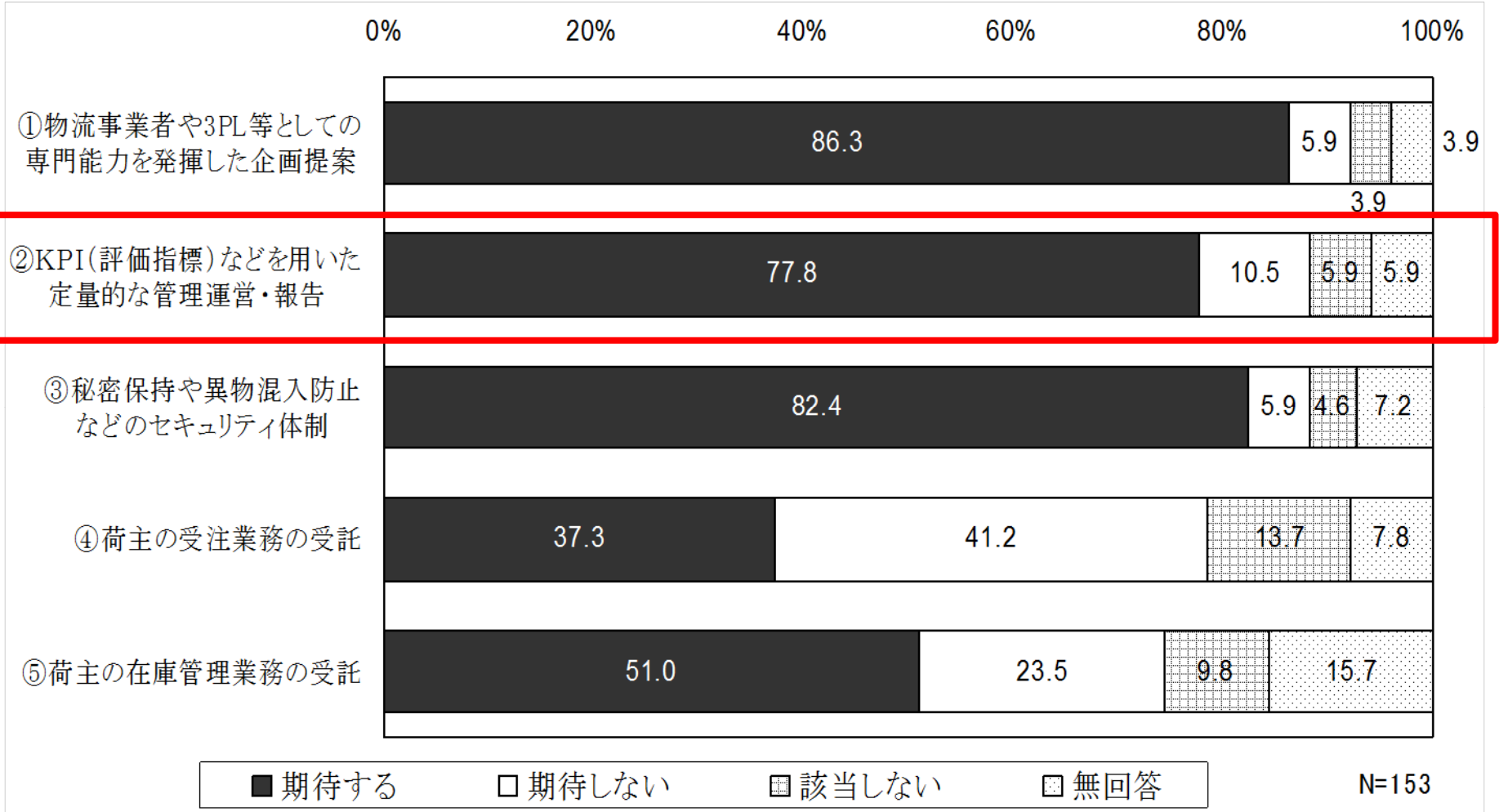
# 物流事業者の想定している課題（2）

・グローバル化対応のためにも直接的、間接的にKPIの必要性が感じられている。



# 荷主の期待する受託業務やサービス

● 荷主の8割弱は、アウトソーシング先にKPIなどを用いた定量的な管理運営・報告を望んでいる。



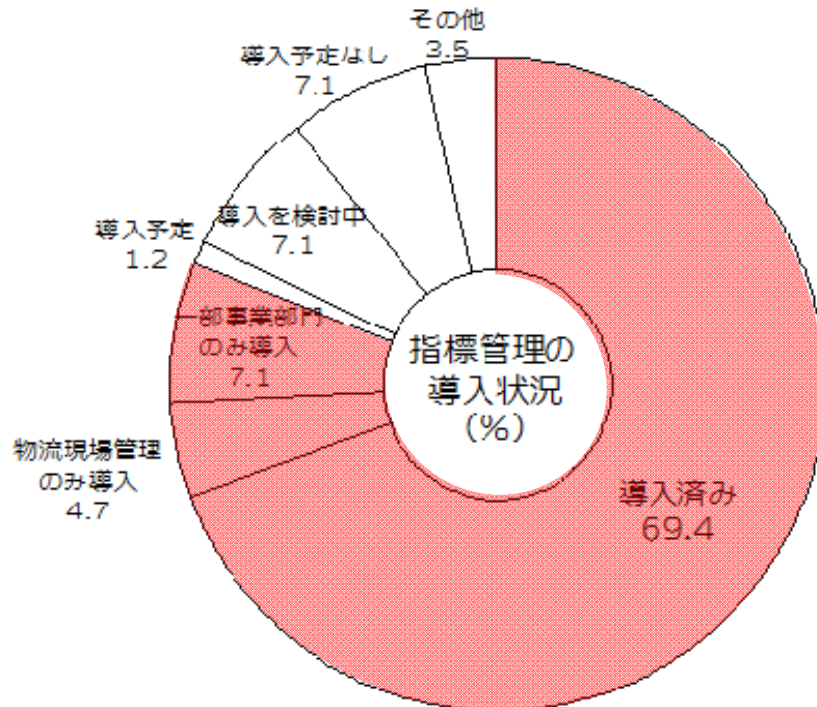
出典：JILS「ロジスティクスの将来構想策定に関わるアンケート調査報告書」



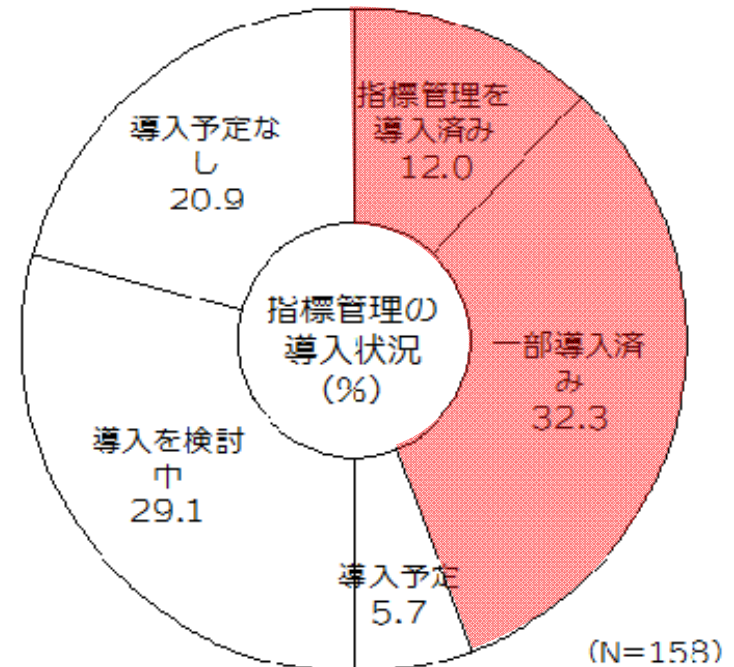
# 物流管理指標の導入状況

- 荷主向けのKPI調査の結果ではKPIの導入済みが7割、一部導入済みを含めると約8割に上る。
- JILS主催の物流コスト研究会参加者（業種構成比：物流事業者35%、製造業36%、流通業13%、その他16%）へのアンケート結果では、導入済みは12%に留まり、一部導入済みを含めて44.3%になっている。

(KPI調査)



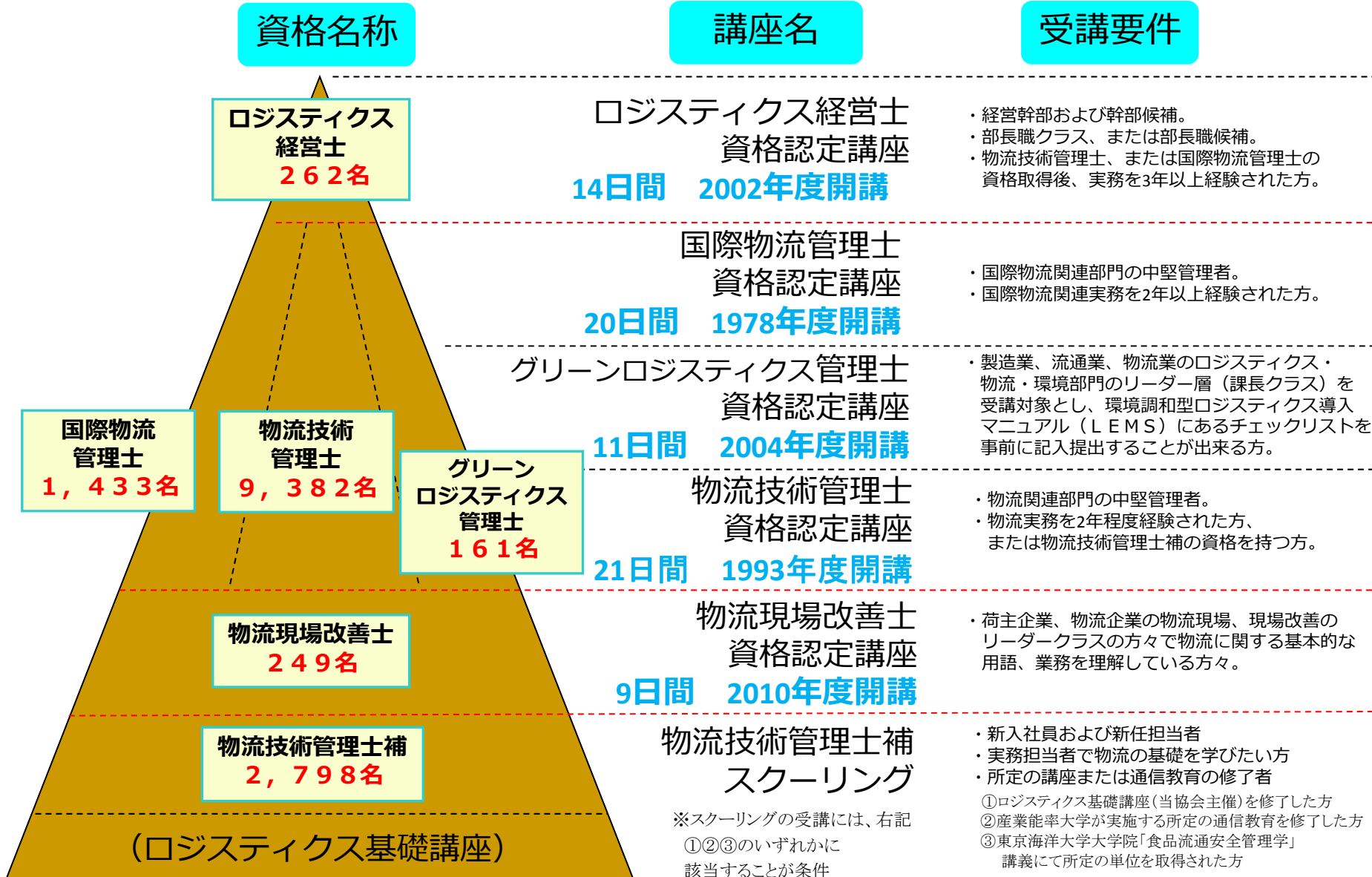
(JILS主催研究会参加者の回答)





# JILS認定の各種資格と取得者数

(2014年3月31日現在)



# 環境・安全等の外部評価の取得状況

- **ISOの認証取得割合等は低い水準であり、体系だったマネジメントを取り込みづらい環境にある可能性がある。**

## • **ISO9001**

**ISO 9000はISO(国際標準化機構)による品質マネジメントシステムに関する規格。**

**ISO9000シリーズの規格のうち認証対象となる規格がISO9001。**

- ◇ **認証取得組織数 1,538 (輸送・倉庫・通信関連業種における取得組織数)**

**※これは運輸・通信業の全企業数103,517 (注) に対し1.48%に相当。**

## • **ISO14001**

**ISO 14000は、ISO(国際標準化機構)による環境マネジメントシステムに関する国際規格。**

**ISO 14000シリーズのうち、要求事項を定めたものがISO14001。**

- ◇ **認証取得組織数 779 (輸送・倉庫・通信関連業種における取得組織数)**

**※これは運輸・通信業の全企業数103,517 (注) に対し0.75%に相当。**

出典：ISO取得数は日本適合性認定協会ホームページ (<http://www.jab.or.jp/iso/> 2014年11月閲覧) による

注：企業数は、経済センサス(平成24年)における「企業等」の数(運輸・通信業に該当するもの)。

なお、ISOは企業単位の取得が必須ではないため、正確には率の分母・分子が異なる。

## • **Gマーク(安全性優良事業所)**

**Gマークは、トラック運送事業者に対し、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関(全日本トラック協会)が認定・交付する「安全性優良事業所」のシンボルマーク。**

- ◇ **認定事業所数 19,238事業所**

**全事業所数の23.0%(平成26年3月末日現在)。**

出典：Gマーク認定事業所数は、全日本トラック協会ホームページによる(2014年11月閲覧)

## 海外における業務改善の取組（米国）

- **米ゼロックス社（電機機器製造業）**  
**70～80年代に日本企業との競争でシェアが急落**



- **調査の結果、日本企業との間で圧倒的な業務効率の差があることが判明。**



- **「ベンチマーキング※」の手法を体系化し、業務プロセスの改革に着手。**

※ベンチマーキング：

- ①製品、サービス、プロセス、慣行を継続的に測定し、パフォーマンスの良い競合他社やその他の優良企業のパフォーマンスと比較すること。
- ②さらに、優良企業のベスト・プラクティスをみつけてそれを自社に適用・実行すること。

## ～物流事業者におけるKPI導入促進の必要性～

- 物流KPIを活用することにより、業務プロセスの見える化が実現し、これを目標に掲げ改善活動を行うことが可能となる。**
- 物流KPIを活用した改善活動の効果としては、業務の安全性、品質確保等やこれらを通じた利益率の向上等も期待される。**
- しかし、日本の物流業界においては、必ずしも導入が進んでいるわけではない。**
- そこで、利用場面における物流KPIの概念および物流KPIの活用方法、浸透方法等の物流KPIのあり方を確立する必要がある。**